

〔チーム研究4〕若年者の性についての意識と行動に関する研究（主任研究者 宮原 忍）

若年者の性についての意識と行動に関する研究

第2報 青年の性と生活に関するアンケート調査

母子保健研究部 宮原 忍・千賀悠子・齋藤幸子

共同研究者 竹井 操（東京都幼・小・中・高性教育研究会）

内山絢子（科学警察研究所）

星山佳治（昭和大学医学部）

要約：現代青年の性意識と身体観、自己受容に注目して質問紙調査を行った。対象は高校生および大学生男女で、調査場所は都内および他4県の高校8か所、大学7か所であった。調査票配布総数は1,842件、有効回答1,558件（男性620名・女性938名）を分析対象とした。

「愛情」-「性交」-「結婚」-「人生の充実」-「子どもを持つこと」についての意識において、それぞれに乖離が認められた。このことは、今日においては、男女交際の進行が将来の結婚に結びつかなくなっているという印象を与える。

性的被害の状況から「見知らぬ人から」と「身近な人から」の被害の多いことが判明した。

女性は自分の性をよかったと受容している割合が、男性に比べ低かった。社会的に差別されているので、女性という性がいやだと思う場合が多く、女性が性的同一性を獲得するには社会的要因による葛藤があることが示唆された。

自分の性を受容しにくい人たちは、結婚あるいは子育てなどに関して否定的あるいは消極的な人生態度をもっていた。性的同一性の受容の問題は、どのようなライフスタイルをもち、どの様に生きていくかということに関与していた。

キーワード：青年期、性行動、性的同一性、ライフスタイル

Studies on The Sexual Consciousness and Behavior of Japanese Youth (2nd Report)

Shinobu MIYAHARA, Yuko CHIGA, Sachiko SAITO,
Misao TAKEI, Ayako UCHIYAMA, Yshiharu HOSHIYAMA

Summary: A survey was made about the opinion and attitude of the Japanese high school and college students on their sexuality, body and self-acceptance. 1,842 set of questionnaires were delivered and 1,558 valid answers (620 males and 938 females) were returned and analyzed.

Among the articles like "love", "coitus", "marriage", and "sense of fulfillment", only a small relationship was revealed, which suggested that the close relationship between the sexes nowadays did not lead to their marriage.

The acceptance rate of own sexes was lower in females than males. The many females disliked their own sexes because of the social discrimination, suggesting the inner social conflict to obtain their gender identity.

The people who had low acceptance of their sexes had negative attitude on marriage and child rearing. Acceptance of gender identity was shown to be one of the big factors about choosing life-styles.

Key words: Adolescence, Sexual behavior, Sexual Identity, Life-style

I 研究の目的

我々は、わが国の少子化について研究を進めてきた。非婚・晩婚傾向はその要因の代表的なものであるが、その背景として、性と結婚の乖離が存在すると考えられた。そこで1997年度にわが国の代表的な性行動調査を概観し、文献1)に要約した。その結果、多く調査では狭義の性行動の発達に中心があり、性の意識面については取りあげ方が不十分であると感じられた。そこで現代青年の性意識と身体観、自己受容に注目して調査を行った。なお、日本性教育協会の全国的な性行動調査が1999年に予定されているので、調査項目の重複は最低限にとどめた。

II 調査の方法と対象

1 調査内容

「青年の性と生活に関する調査」と題し、以下の内容で調査を行った。

- 1) 対象の属性
- 2) おしゃれ・ファッションについて
- 3) 友人について
- 4) 異性とのつきあいや性について、不快な経験
- 5) 性交や援助交際について
- 6) 自分の身体・性別について
- 7) 子ども観・結婚観について

2 調査方法

高校生および大学生を対象に質問紙による集団調査法(一部、郵送による個別回収)を行った。調査場所は、都内8か所の都立高校と3か所の大学、およびその他の地域で4か所(山形県・石川県・宮城県・愛知県)の大学であった。計15か所で、うち14か所は共学校・1か所が女子校であった。調査票配布総数は1,842名であった。

3 調査期間

1999年1月～1999年2月に行った。

4 回収率および有効回答

回収したアンケートは1,596件であった。性別不明の38件を除き、男性620名・女性938名の1,558件を有効回答とした(有効回答率84.6%)。

III 結果 および 考察

有効回答について、性別集計を中心に分析を進めた。以下「有意差がある」または「差がある」とした場合の危険率は1%未満である。

1 対象の属性

回答者の内訳は大学生が男性182人(11.7%)・女性491人(31.5%)、高校生が男性438人(28.1%)・女性447人(28.7%)であった。

平均年齢は男性18.2歳・女性18.6歳で、年齢別内訳は表1の通りであった。18歳未満の合計は男性69.6%・女性47.4%で、その他が18歳以上であった。

同居関係では「一人暮らし」は高校生は男性3名、女性1名で高校生全体の0.5%とわずかであった。大学生では男性の44.0%・女性42.6%が一人暮らしであった。夫または妻・恋人またはパートナーとの同居は高校生男性5名・女性3名で高校生全体の0.9%、大学生では男性4名・女性19名で大学生全体の3.4%であった。

以下、大学生の男性群を「大学男性」と表し、同様に各群を「大学女性」「高校男性」「高校女性」と表す。

2 おしゃれ・ファッションについて

(1) おしゃれの体験と興味

「次のようなおしゃれ体験をしていますか」の設問は「化粧」や「ピアス」などから、「美容整形」にいたるまで、自分の身体に手を加えて変えようとすることにどれくらい興味があるのか、また実践しているかを尋ね、若者の身体感覚の一端を知ろうとした(表2)。興味がある割合をみるため、「している」と「いずれしてみたい」の合計の傾向をみると以下の通りである。女性が男性より、圧倒的に割合が高い項目は「1.化粧をする」男性10.5%・女性95.6%、「4.腕や脚の脱毛をする」男性16.0%・女性92.1%、「11.エステに通う」男性9.8%・女性65.1%であった。女性が男性よりやや高い項目は10「美容整形」男性4.0%・女性10.1%であった。

男性の興味の割合が、女性のそれに近付きつつあると思われる項目は、「3.眉の手入れをする」男性45.8%・女性96.5%、「5.髪を染める」男性59.2%・女性81.3%、「6.ピアスを耳にする」男性28.9%・女性67.8%、「8.スタイルをよくするためにダイエットをする」男性25.7%・女性79.1%、「9.スタイルをよくするためにフィットネス(運動)をする」男性44.9%・女性84.6%であった。

男性が女性よりやや高い項目は、「7.入れ墨を入れる」男性10.2%・女性6.1%、「12.日焼けサロンで肌を焼く」男性10.4%・女性5.3%、「13.自分のヌード写真

を撮る」男性 7.4%・女性 5.3%であった。
性別による差がなかった項目は「2.ビジュアル系のメイクアップをする」男性 11.3%・女性 11.3%であった。

このように、おしゃれ体験については全体に女性が「している」「いずれしてみたい」の合計割合が高いが、「3.眉の手入れをする」「5.髪を染める」「9.スタイルをよくするためにフィットネス（運動）をする」では半数近くの男性が「している」または「いずれしてみたい」と興味をもっており、女性の行動嗜好に近づきつつある部分と思われた。

なお大学生・高校生別にみると、大学生の方が「している」割合が高い項目が多くなっていたが、男女差の傾向はほぼ同じであった。

(2) 流行の取り入れについて

「あなたの着ている洋服はどのように選びますか」の設問では、男女間でやや異なった傾向がみられ、男性の1位は「4.流行に関係なく、自分に似合うものを選ぶ」に 59.8%と集中しており、2位は「2.適当に流行を取り入れる」28.5%であった。一方、女性の1位は「2.適当に流行を取り入れる」50.2%であったが、「4.流行に関係なく、自分に似合うものを選ぶ」の 45.3%と拮抗していた（表3）。

大学生・高校生別にみると、男性1位では「4.流行に関係なく、自分に似合うものを選ぶ」が大学生 63.2%・高校生 58.4%と同傾向を示すが、女性では高校生は1位が「2.適当に流行を取り入れる」53.9%、大学生の1位は「4.流行に関係なく、自分に似合うものを選ぶ」49.7%であった。

全体では女性は男性より流行を気にする人がやや多く、高校男性・高校女性・大学男性・大学女性の4群中では、高校女性が最も流行を取り入れる傾向が認められた。

3 友人・異性について

(1) 信頼し何かと相談できる友人の有無

「信頼し何かと相談できる友人がいますか」の問いに対して、大半の男女が「いる」と答えていたが、「いない」との回答は女性 6.1%に対し、男性 18.5%と男性が多かった（表4）。大学生・高校生別にみると、「友人がいない」との回答は高校の男性が最も割合が高く 22.1%であった。次いで、大学男性 9.9%、高校女性 9.6%、大学女性 2.9%であった。この順位の傾向は他の調査結果とも共通していた2）。

異性の友人がいると答えた割合は男性は全体の 39.2%、女性は全体の 44.2%であった。友人がいると答えた人の中では男性 48.6%・女性 48.1%と差がなかった。

大学生・高校生別にみると、「異性の友人がいる」

と答えた割合は、高校生は男性 34.0%・女性 34.0%と同率であり、大学生では男性 51.6%・女性 55.0%と「いる」割合は多くなっており、半数を超えていた。

(2) 異性の友人が欲しいかどうかについて

「異性の友人が欲しいですか」の設問では、「欲しい」は男性 85.3%・女性 92.8%、「欲しくない」は男性 12.9%・女性 5.8%と、女性が男性より「異性の友人が欲しい」とする割合が多かった（表5）。さらに「欲しくない」理由をみると「今つきあっているのでこれ以上欲しくない」が男性 3.9%・女性 2.8%が含まれており、これを除くと「欲しくない」は男性 9.0%・女性 3.0%となり、女性は特に否定する割合が少なかった。

異性の友人が欲しくない理由は「今つきあっているのでこれ以上欲しくない」を除いた「欲しくないと答えた人」男性 56人・女性 28人中で割合を見ると、「わずらわしい」がトップで男性 48.2%・女性 75.0%である。男性は「経済的・精神的負担」が 30.4%と女性の 14.3%より理由として多くあげている。

大学生・高校生別にみると、欲しくないは男性が多く、その理由は「わずらわしい」がトップであるなど両者同じ傾向であったが、「経済的・精神的負担」をあげた17人中13人は高校男性であった。

(3) 理想の異性について

「理想の異性としてはどのような事を重視しますか」では「恋人・友人としてつきあいたい人」と「将来結婚したい人」の2通りたずねた。18項目について「重視する」「やや重視する」「重視しない」の3選択しから、1つずつ選んでもらった。

①恋人・友人としてつきあいたい理想の異性について

「恋人・友人としてつきあいたい理想の異性」として「重視する」事は、表6-1に示すように、1~3位は男女とも「17.一緒にいて楽しく」男性 84.7%・女性 94.1%、「5.やさしい（おだやか）」男性 74.0%・女性 80.7%、「9.率直に話し合える」男性 73.1%・女性 80.0%であった。これらの項目は「やや重視する」を含むと更に割合が増え（表6-2）、95%以上100%近くの人がこれらを重視するまたはやや重視するとしていた。次いで多かった項目は、男女とも「13.相性がよい」男性 69.2%・女性 79.4%、「12.フィーリングが合う」男性 64.5%・女性 75.6%で、これらも「やや重視する」を含むと割合が90%以上となっていた。続いて、「1.相談にのってくれる」「15.寂しさをいやしてくれる」「16.励ましたり、自分成長させてくれる」が男女とも多くが重視している。お互いの関係性を重視した項目が上位に並んだ。これらの特徴をまとめると、第1に「楽に付き合えること」、第2は「自分に合うこと」、第3は「精神的な支え」を異性に求めていると言えよう。

全体の傾向としては、各項目「重視する」を選択した割合は女性の方がやや高く、男性は「重視しない」割合が全項目で高い。女性の方が、つき合う相手を選択する際に条件が多いということであろう。一方、男性の特徴を上げると、女性より高い項目は「3.ルックスがいい」男性 33.1%・女性 20.6%、「18.セックスの相性がよい」男性 30.2%・女性 20.4%であった。ルックスへのこだわりは男性にやや多くみられた。

「重視しない」が多かった項目は、男女とも1位は「お金をもっている」男性 65.8%・女性 50.0%、2位は「頼めばなんでもやってくれる」男性 49.0%・女性 38.0%、3位は男性が「能力・才能がある」37.1%、女性では「セックスの相性がよい」34.4%であった(表7)。

「恋人・友人としてつき合いたい理想の異性」は男女ともに「一緒にいて楽しく、率直に話し合える、やさしい」人である。フィーリングが合い、対等でリラックスしたコミュニケーションできる関係が望まれているといえよう。また、相手に対して、お金をもっていることや、なにかをやってくれるといった物理的な依存関係より、「相談にのってくれる、寂しさをいやしてくれる、励ましたり、自分成長させてくれる」といった精神的な支えを求めていた。これらの項目は全て、女性の重視する割合が男性よりが高かった。

②将来、結婚したい理想の異性について

「将来結婚したい理想の異性」の1・2位は「今つきあいたい理想の異性」と同じく、男女とも「17 一緒にいて楽しく」男性 83.1%・女性 93.3%、「9 率直に話し合える」男性 82.6%・女性 93.1%であるが、女性は3位「1 相談にのってくれる」が 91.7%と1・2位と並んで割合が高い(男性 73.2%)。男性の3位は「優しい(おだやか)」76.9%(女性 87.1%で4位)であった。以下、「13.相性がよい」「12.フィーリングが合う」など、1~6位は順序は異なるが「今つきあいたい人」と同じ項目が並んだ(表6-1)。

全体では「今つきあいたい理想の異性」と同じく、「重視する」の選択率は女性の方が男性より高い項目が多く、男性が女性より高い項目は同じく「3.ルックスがいい」であったが、男性 24.8%・女性 14.3%と男女いずれも「今つきあいたい人」より割合が下がっていた。「18.セックスの相性がよい」は男性 38.5%・女性 35.0%と「今つきあいたい人」より割合が高く、男女の差がなくなっていた。

「重視しない」項目では、男女差がみられた。男性は1位「4.お金をもっている」50.2%、2位「自分に引け目を感じさせない」33.2%、3位「2.頼めばなんでもやってくれる」31.1%に対し、女性は1位「3.ルックスがいい」26.5%、2位「8.自分に引け目を感じさせない」22.2%、3位「頼めばなんでもやってくれる」19.8%であった。「今つきあいたい人」で男女とも「重視しない」が最も多かった「お金をもっている」は「重

視しない」が男性 50.2%・女性 9.2%と女性の40%程度が「重視する」と「やや重視する」(計 89.9%)にシフトしていた(表7)。女性にとって結婚と経済がいかに関わりをもっているか、如実に物語っているといえる。

女性の特徴として、相手が「7 自立している」ことを82.9%が求めている(男性は 37.7%である)。女性の「6 今つきあいたい人」33.8%に比べても大きく増えている。「能力・才能がある」も増えており、「18 セックスの相性がよい」は「今つきあいたい人」では、「重視しない」男性 29.2%・女性 34.4%であったが、「将来結婚したい人」では男性 21.3%・女性 18.9%に減って、「重視する」「やや重視する」が男性 74.0%・女性 77.4%と多くなっていた。

「将来、結婚したい理想の異性」は男女とも「一緒にいて楽しく、率直に話し合える」であり、結婚相手のイメージは、今つき合いたい恋人像の延長線上にあった。そして、男女ともに「今つき合いたい理想の異性」より、重視するとした項目は増えていた。その内容はルックスやセンスなどの表面的な事が減り、精神的な結び付きが更に重視され、求められていた。女性はそれに加えて、経済力(お金を持っている)・才能・自立など実質的な価値も重視する傾向が認められた。女性が男性に経済力・才能・自立を求め、一方、男性が女性にこれらをあまり求めていない。これは、女性が男性に頼って生きざるを得ない現在の社会の状況を、若い世代が感じとっていることの表れと言えるのではないだろうか。

わが国の晩婚化の理由のひとつは、「適当な相手が見つからない」ことである。対象の青年は「一緒にいて楽しく、率直に話し合える」結婚相手を見つける事ができるであろうか。「率直に話し合える」ことためには、夫婦が対等な関係でなければならないが、そのためには何が必要であるのか、互いに「やさしさ」を求めるだけではなく、青年らが自らの(固定的)価値観を問うていくことも必要ではないだろうか。

4 異性とのかつき合いや性について

(1) 異性とのかつき合い

「異性とのかつき合い」として、性的関心や行動を尋ねた。日本性教育協会「青少年の性行動全国調査」3)と対照できるように、同じ項目内容を設問し、大学生・高校生別に示した(表8)。高校生と大学生別の集計では、当然大学生の経験率が高くなっていた。大学生・高校生別に見た男女の特徴は以下の通りである。

高校生と大学生ともに男性の「経験あり」の割合が、女性より高い項目は「13.性的な関心から異性のからだに、さわったことがありますか」「14.性的な意味あいでキスしたいと思ったことがありますか」「18.自慰の経験がありますか」であった。

高校生と大学生ともに男女差のなかった項目は、「10.異性に近づいて親しくなりたいと思ったことがありますか」「11.デートをしたことがありますか」「15.性的な意味あいでのキスの経験がありますか」「19.同棲の経験がありますか」であった。

「12.性的なことに関心を持つたことがありますか」は高校生では女性の割合が男性より低い、大学生では男女差がなく大半の男女が関心をもつようになっていた。

「意味が分からない」が多かったのは「ペッティング」で、現在の青年にはあまり使われない言葉となつていてと考えられた。

(財)日本性教育協会実施した第4回「青少年の性行動全国調査」(1993年)2)と比較すると、本調査対象が高校生・大学生いずれの項目においても経験率は高くなっていた。

(2) 不快な経験(性的被害)について

不快な経験として、6項目の性的被害の状況を尋ねた(表9)。すべての項目で、女性の経験率が高かった。経験ありと答えた割合は以下の通りである。

「1.身体をじろじろ見られた」男性 25.8%・女性 57.9%、「2.言葉などで性的なからかいを受けた」男性 26.3%・女性 43.3%、「3.電車の中などで体を触られた」男性 12.7%・女性 57.6%、「4.性的な誘いを受けた」男性 16.0%・女性 40.5%、「5.性的な行為を要求された」男性 11.1%・女性 27.5%、「6.性的な暴行を受けた」男性 2.1%・女性 3.7%。

不快な経験や被害を誰から受けたかについては、男女とも「見知らぬ人」からが多い。特に女性の場合「3.電車の中などで体を触られた」57.7%、「1.身体をじろじろ見られた」47.9%、「4.性的な誘いを受けた」20.9%の順が多い。男性の場合でも「1.身体をじろじろ見られた」18.7%、「3.電車の中などで体を触られた」11.1%となっており、男性にとっても決して稀な経験ではなかった。

「5.性的な行為を要求された」では「身近な人から」が、女性で最も多く10.1%であった。「2.言葉などで性的なからかいを受けた」では「友人から」が男女差がなく、男性19.7%・女性17.0%認められた。

以上のように、性的な被害は比較的軽いものは「見知らぬ人」からが多く、その頻度は女性において特筆すべき高率で起こっていた。また、重い被害については「身近な人から」が最も多く、どちらも青年への影響を考慮すれば、深刻な問題である。見知らぬ異性や身近な異性から受ける性的な不快な経験が、青年の現在および将来にどのような影響を及ぼしているか明らかにすることで、その被害の重大性が浮かび上がるであろう。

また以下の性交経験の有無別の集計結果からは、被害の潜在性が推察できよう。

性交経験の有無別に、性的被害の状況をみると、男女ともに「性交経験あり」の群が「性交経験なし」の群に比べ、重い被害を受けた割合が高くなっていた。

<女性>

「4.身近な人から、性的な誘いを受けた」

性交経験あり群 13.6%・なし群 4.2%

「5.身近な人から、性的な行為を要求された」

性交経験あり群 16.7%・なし群 6.0%

「6.身近な人から、暴行を受けた」

性交経験あり群 2.8%・なし群 0.7%

<男性>

「4.身近な人から、性的な誘いを受けた」

性交経験あり群 11.6%・なし群 1.4%、

「5.身近な人から、性的な行為を要求された」

性交経験あり群 10.6%・なし群 0.5%、

「6.身近な人から、暴行を受けた」

性交経験あり群 1.9%・なし群 0.0%

本調査では性交経験について、それが合意の上の経験であったか、性的被害としての経験であるかまではきいていないが、性交経験ありとの回答の中に一部分的被害としての経験が含まれている可能性は否定できないであろう。また、性交経験あり群の性的被害の経験率の高さは、性生活を開始した青年が身近な人(すなわち恋人など)からの性的被害を受けている可能性があることも示唆している。

以上、不快な経験(性的被害)の状況から「見知らぬ人から」と「身近な人から」の被害の多さが判明し、その潜在性についても言及した。不快な経験や性的被害から青年を守る手だてを早急に講じることが肝要である。

(3) 性交についてどのように思っているか

「あなたは性交(セックス)についてどのように思っていますか」に対して「そう思う」と答えた割合を表10に示した。

「1.性交は素晴らしいことだと思う」で男性55.8%・女性34.4%が「そう思う」と答えており、男性の「そう思う」と答えていた割合が高かった。しかし、この項目は女性の「わからない」と答えた割合が49.5%と多く、「そうは思わない」では12.4%・15.1%で差がなかった。この項目は性交経験との関連があり、男女ともに<性交経験ありの群>の肯定率は高くなっていた。

「1.性交は素晴らしいことだと思う」

<女性>性交経験あり群 57.2%・なし群 21.2%

<男性>性交経験あり群 74.1%・なし群 47.3%

性を否定的に捉えた4項目では「6.性交はしたくない」男性3.5%・女性5.8%、「7.性交することは怖い」男性11.8%・女性30.0%、「8.性交に自信がない」男性17.7%・女性27.4%、「9.妊娠が怖い」男性44.5%・女性57.6%と、いずれも女性の「そう思う」割合が男

性より高かった。

関係性に関わる項目では「3.愛し合っていれば性交してよい」で差がなく男性 76.6%・女性 73.7%であった。「4.どちらかしたくない時は性交しない方がよい」は男性 74.7%・女性 89.9%と、女性の「そう思う」割合が高く、「5.愛情に関係なくしてよい」は男性 21.9%・女性 6.8%と男性が高かった。このように「性交すること」と「気持ち・愛情」との間には、男性は女性に比べ、やや乖離している傾向がみられた。

「婚前性交」については表 13 に示すように「どんな場合でもいけない」は男性 2.1%・女性 1.4%と、大半の男女が許容しており、「結婚が前提ならかまわない」は男性 3.1%・女性 3.5%に過ぎない。男女とも「性交すること」と「結婚すること」との乖離は顕著であった。

以上のように全体に、男性が女性より性交を肯定的に捉える傾向がみられ、愛情と性交と結婚の間に乖離傾向が見て取れた。

(4) 性交と性病の感染について

「性交をするとき相手が性病にかかっているかどうか気になりますか」の設問に対して、男性は「気にならない」35.8%・「気になる」は 65.2%、女性は「気にならない」21.6%・「気になる」75.9%で男性の方が気にならない割合が多い(表 11)。

「気にならない」理由は男女とも「2 自分の相手は性病でないと思う」が最も多く、気にならないと答えた男性 222 人中 36.9%・女性 203 人中 52.2%を占めた。続いて男性は「考えたこともないので」27.0%と、女性の 15.8%に比べ多くなっていた。「必ずうつるわけではないので」も男性 14.4%で女性の 7.9%くらべ多かった。「コンドームを使うので」は男性 21.6%・女性 24.1%と男女間の差は小さかった。男性は女性に比べ、気にならない割合が多いことに加え、その理由で「考えたこともないので」「必ずうつるわけではないので」といった無防備な考えを持つものが多い傾向がみられた。

「気になる」場合どのような行動をとっているかでは、全体の男女の差は小さく、「性病でないと確認してから」のみ男性 16.1%・女性 21.6%と女性の方がやや多かった。最も多い回答は「コンドームで予防できる」で男性 42.1%・女性 38.2%であった。「性病でないと確認してから」と合わせて、気になる場合の具体的な対処法を選択したものは過半数を占めていた。一方、気になりながらも主体的とは言えない選択肢「その場や相手次第で行動する」は男性 33.7%・女性 32.0%、「その場では言い出せない」は男性 8.2%・女性 8.1%みられた。

性病に対して無防備な回答とし「A 気にならない」場合の「考えたこともないので」「自分の相手は性病でないと思う」「必ずうつるわけではないので」と、「B

気になる」場合の「その場や相手次第で行動する」「その場では言い出せない」を合計すると、全体で男性 55.3%・女性 46.9%となり、対象の男女合わせて全体のおよそ半数が性病に対して、無防備な考え方を持っているといえよう。

(5) 援助交際についてどのように思うか

いわゆる「援助交際」について、青年がどのように捉えているか 8 項目の設問をし「そう思う」「そうは思わない」から一つをえらんでもらった(表 12)。援助交際を「してもかまわない」と肯定的にとらえた項目(1~3)では、いずれも男性の「そう思う」と答えた割合が女性より多かった。「援助交際してもかまわない」理由では最も「そう思う」が多かった項目は「1 身体や心は自分のモノだから」男性 26.8%・女性 16.8%であった。次いで、「2 身体が減ったり心が傷つくモノではないから援助交際してもよい」男性 13.5%・女性 5.8%、「3 遊びやファッションの一つだから、援助交際をしてもかまわない」男性 6.9%・女性 2.8%であった。

援助交際を「いけない」ととらえた項目(4~6)では、いずれも女性の「そう思う」と答えた割合が男性より多かった。「いけない」理由で、女性の割合が男性より有意に高い項目は「4 援助交際をすることは身体や心を傷つけることだからいけない」男性 64.0%・女性 81.9%、「6 援助交際をすることは理屈抜きでいけない」男性 55.6%・女性 64.6%であった。「5 将来の愛する人との関係に影響を及ぼしそうだからいけない」は男性 68.1%・女性 73.8%と差が小さく、男女共通してもつ意識と言えそうである。

援助交際が行われる原因について言及した 2 項目については、いずれも女性の「そう思う」割合が男性より高かった。すなわち「7 援助交際をしている人は寂しいからやっている」男性 25.2%・女性 34.1%、「8 援助交際を買う人がいることが問題である」男性 71.5%・女性 86.6%であった。

援助交際に付いては、男性が女性より許容度が高い結果であった。

ベネッセ教育研究所の女子高校生対象とした調査(4)の結果に对照すると、同調査で援助交際のいけないといわれている理由の最も回答の多かった項目は「将来好きな人が出来た時、後悔する」の「とてもそう思う」67.5%、「わりとそう思う」23.0%であり、本調査の「5 将来の愛する人との関係に影響を及ぼしそうだからいけない」女性 73.8%の回答率に近似している。しかし、ベネッセ調査の項目にはなかったため比較ができないが、本調査でもっとも回答率が高かったのは「身体や心を傷つけることだからいけない」であった。若者に自分の身体や心を傷つけてはいけない・大切にすることが本調査から明らかになった。

6 自分の身体・性別をどのように思うか

自分の身体および性別、そして現在の自分自身をどのように受容しているかを質問し、性的同一性 (sexual identity) について検討した。

(1) 自分の<身体>をどのように感じているか

1) 男性 (表14)

①「自分の身体が好き」：<自分の身体が好き19.4%・どちらともいえない41.9%・そうは思わない37.7%>である。男性は、自分の身体を積極的に好きとだとは思っていない。②「自分の身体に違和感がある」：<そうは思わない58.5%>で、自分の身体に対して違和感を持っている割合が低い。③「身体のことを考えたことがない」：<そうは思わない69%>で、身体のことを比較的考えている。④「気になることはあるが、自分の身体は大切にしたい」：<そう思う82.7%>で、大切にしたいと思っている。

男性は自分の身体を積極的に好きではないが、違和感を持っていない。身体のことでも気になることがあるが、自分の身体を大切にしていこうと思っている。

男性は、女性と比べ自分の容姿を気にして考えているという割合が少ないといえる。

大学生と高校生の比較では、大学生の方が<自分の身体が好き25.3%・違和感がない72.5%・自分の身体のことを考えている81.9%・大切にしている79.0%>という項目の割合が高い。

2) 女性 (表14)

①「自分の身体が好き」：<好き12.5%・どちらともいえない32.6%・そうは思わない54.1%>である。女性は、自分の身体を否定的に捉えている傾向がある。男性に比べ、自分の身体を好きという割合が有意に低い。②「自分の身体に違和感がある」：<そう思う15.0%・そうは思わない59.9%>であり、自分の身体が好きではないが違和感は感じていない。③「身体のことを考えたことがない」：<そうは思わない82.3%>である。男性に比べ、自分の身体のことを考えている割合が有意に高い。④「気になることはあるが、自分の身体は大切にしたい」：<そう思う92.6%>である。男性に比べ大切にしている割合が有意に高い。

女性は、自分の身体が好きではないという割合が約54%あり、80%以上の人が身体のことを考えている。また、気になるけど大切にしていこうと思っている人が93%いる。

高校生と大学生を比較すると、大学生は<自分の身体が好き18.3%・違和感がない68.4%・自分の身体のことを考えている89.0%・大切である94.1%>という結果で、大学生の方が自分の身体を否定的に受け止めている割合は低い傾向がある。

(2) 自分の<性>をどのように思っているか

<自分の性でよかった>と思う割合は、男性63.9%・女性41.4%である。自分の性でよかったと思う割合は、男性の方が有意に高い。(表15)

また、<どちらかというともよくない>あるいは<よくない>と思っている人を合算した割合は、男性4.7%・女性13.1%である。自分の性を否定的に受け止めている割合は、女性の方が有意に高い。

男性は、自分の性を受容している人の割合が高い。また、高校生と大学生の比較したが、自分の性を受容している割合は高校生62.2%・大学生67.6%であり、有意差はない。

女性が自分の性でよかったと受容している割合は約40%であり、男性に比べ自分の性を受容している人の割合が低い。また、高校生と大学生の比較では、自分の性を受容している割合は高校生は36.2%・大学生46.0%で、大学生の方が自分の性を受容している割合が有意に高い。

(3) 自分の性を<よかったと思うか、あるいはいやだと思う>のはどのような場合か

1) 男性

①<よかったと思う場合 (表16-1)>

男であることをよかったと思える場合は、「体力・パワーがある56.9%」・「理屈抜きによい39.4%」・「男は妊娠・出産しない39.2%」・「行動力がある27.4%」・「男らしさを備えている24.2%」・「雇用や職場で優遇19.2%」・「養う力がある15.6%」・「能力が優れている13.9%」・「社会(慣習)で優遇10.6%」・「家族から期待をかけられる8.1%」である。

男性はパワー・理屈抜きによい・妊娠、出産しない・行動力があるなど、男性としての生理的レベルにおいてよかったと思っている。社会では、男性の生理的レベルでのことが評価されるので、男性は自分の性を受容しやすいといえる。女性と比べると、「男らしさを備えている」・「社会(慣習)で優遇される」を除くすべての項目において、男性の割合が有意に高い。

高校生と大学生を検討すると、第1位の項目は高校生も大学生も同じだが、他の項目の順位と割合が若干異なる。高校生の第2位以下は、「妊娠・出産できない44.5%」・「理屈抜きによい42.0%」・「行動力がある29.0%」・「男らしさを備えている21.7%」である。

大学生の第2位以下は「理屈抜きによい33.0%」・「男らしさを備えている30.2%」・「雇用や職場で優遇28.0%」・「妊娠・出産をしない26.4%」・「行動力がある23.6%」である。

高校生は性的衝動とその行動の結果を考えた場合に、自分が妊娠する性でないことは得であると考えているのではないだろうか。妊娠・出産をする性が物理的に、また社会的損益を被る実態を知っていて、妊娠・出産

をしない性であることがよかったと思っているとも考えられる。

大学生も妊娠・出産をしない性であるよかったと思っているが、高校生に比べその割合は低い。大学生は、雇用において男性は優遇されており、社会的意味においても男性でよかったと思っている。

②<いやだと思う場合> (表16-2) >

男性は男性であることがよかったと思う場合>が多いことから、<いやだと思う場合>は少ない。いやだと思う場合は「男らしさを要求される16.1%」・「家族の期待に応える15.5%」程度である。

高校生と大学生の比較では、ほぼ同傾向を示している。だが、大学生の方がいやだと思っている割合が高い項目があり、「家族の期待に応える24.2%」・「男らしさを要求される20.9%」である。

大学生の場合は社会人になることを目前にし、男性に対する期待が社会や家庭から求められ、重荷になっているのではないだろうか。

男性は、男でよかったと思う割合が有意に高い項目が多くあるが、自分が男性であることがいやだと思う割合が高い項目はない。

2) 女性

①<よかったと思う場合> (表16-1) >

女であることをよかったと思える場合は、「妊娠・出産できる44.8%」・「理屈抜きによい29.0%」・「女らしさを備えている26.0%」・「弱者の視点で考えられる18.8%」・「家庭の中で優遇される13.6%」・「教育の場で優遇される9.0%」である。

女性がよかったと思う割合が比較的高いのは「妊娠・出産できる」性として受容できる場合である。

女性は、男性が男性であってよかったと思う場合の項目をほとんどよかったとは思っていない。男性と比較し、多くの項目でよかったと思う割合が低く、女性は自分の性を受容することが困難である。

男性と比べよかったと思う割合が有意に高い項目は、「弱者の視点で考えられる」である。女性が社会的弱者の立場に置かされていることを逆手にとって考えている女性が約2割いる。

高校生と大学生を比較したが同傾向を示している。だが、「弱者の視点で考えられる」という項目では高校生20.6%・大学生17.1%であり、高校生の方がややその割合が高く、性を社会的な性として捉えている。しかし、「妊娠・出産できるから」では、高校生41.8%・大学生47.5%であり、大学生の方が生理的レベルでの性を受容している割合が高い。

②<いやだと思う場合> (表16-1) >

男性がよかったと思う場合の多くは、女性にとってはいやだと思う場合である。男性に比べその割合が有意に高い項目は、「雇用や職場で差別されている44.0%」・「社会(慣習)で差別されている35.6%」・「体力・パワーがない33.0%」・「同性のことがいや

に思う27.9%」・「女性らしさを要求される24.0%」・「妊娠・出産できるから12.8%」・「家の中で差別される10.3%」である。

高校生と大学生ではほぼ同傾向を示す。だが、「雇用や社会で差別される」からいやだと思う割合は、大学生の方が高い。「妊娠・出産できるから」いやだと思う割合は、高校生15.9%・大学生10%である。

女性であることがよかった思うのは、「妊娠・出産できる」場合である。「理屈抜きによい」・「女らしさがあること」なども女でよかったと思う場合である。これらの項目は、男性の割合と同傾向を示す。

女性は、社会的あるいは雇用において差別されているので自分の性別をいやだと思うと回答している。

妊娠・出産できるからよかったと思うという生理的レベルで自分の性を受容している割合は44.8%である。また、妊娠・出産できる身体だからいやだと思うと、生理的レベルで性を拒否している割合は12.8%である。女性は、生理的レベルで性を受容している割合が多いとはいえない。また、体力・パワーがない場合にも女性としての性を受容しにくい。

社会的に差別されている性であること認識しているのは大学生の方がその割合が多い。

(4) 現在の自分をどのように思っているか

自分の性を受容することに葛藤があっても、自分自身をどの様に受け止めているのか設問した。(表17)

1) 男性

①「自分には能力がある」：<そう思う・そうは思わない・どちらともいえない>の3群に回答が分かれているが、その中でも割合が多いのは<どちらともいえない37.3%>である。②「自分には魅力がある」：<どちらともいえない39.2%・そうは思わない40.0%>である。③「自分は平均的である」：回答が3群に分かれたが、比較的割合が高いのは<そう思う38.4%>である。④「自分とはりえない人間だ」：割合が高いのは<そうは思わない60.2%>である。⑤「自分は運が悪い」：割合が高いのは<そうは思わない45.5%>である。⑥「自分が好き」：割合が高いのは<そう思っている42.3%>である。

男性の自己評価は決して高くはないが、とりえがない人間だとは思っていない。

高校生と大学生との比較では、大学生の方が「自分が好き56.0%」・「魅力がある32.4%」・「能力がある38.5%」と思っている割合が高く、また「とりえがない人間だーそうは思わない65.9%」・「運が悪いーそうは思わない56.6%」であり、その割合が高校生に比べて高い。大学生の方が自分を肯定的に受容しているといえる。

2) 女性

①「自分には能力がある」：回答が3群に分かれてい

るが、その中でも割合が多いのは「**そうは思わない**」38.3%・「**そう思う**」22.0%である。男性に比べ能力がないと思う割合が有意に高い。②「**自分には魅力がある**」：「**そうは思わない**」40.6%・「**どちらともいえない**」38.9%である。男性の結果と近似している。③「**自分は平均的である**」：「**そう思う**」51.1%であり、男性に比べ有意にその割合が高い。④「**自分とはりえのない人間だ**」：「**そうは思わない**」55.0%である。男性に比べその割合は有意に低い。⑤「**自分は運が悪い**」：割合が高いのは「**そうは思わない**」54.4%である。

⑥「**自分が好き**」：割合が高いのは「**そう思う**」43.8%である。

女性は男性に比べ自分の能力についてやや否定的に受け止めているところがある。

高校生と大学生を比較すると、大学生の方が自分のことを受容している割合が高い。大学生では「**自分が好き**」54.2%・「**魅力がある**」27.9%・「**能力がある**」27.9%である。また「**とりえがない人間だとは思わない**」60.5%・「**運が悪いとは思わない**」59.1%であり、自分を否定的に受け止めている割合が低い。

大学生は高校生に比べ、自分を受容をしている割合が高い傾向がある。

女性は、男性の結果と同様に自己評価が低い傾向がある。また、自分は能力がないと思っている割合やそして平均的な人間だと思っている割合は、男性に比べ有意に高い。

(5) 自分の性を受容ができていない群(受容群)と、受容ができない群(非受容群)の検討

表15で、自分の性でよかったと思う人を受容群とし、どちらかというとはよくなかった、あるいはよくないと思っている人を非受容群として、この2群について検討した。

1) 男性(受容群 396例・非受容群 29例)

①表14の自分の身体に対する自己受容：「**身体が好き**—**そうは思わない**」では受容群34.8%・非受容群79.3%、「**違和感がある**—**そう思う**」では受容群15.4%・非受容群44.8%である。非受容群では身体的性の受容ができていない傾向がある。②表16-1・16-2の自分の性をどの様な場合によかったか、あるいはいやだと思ふか：「**体力・パワーがある**—**そう思う**」では受容群61.6%・非受容群20.7%、「**理屈抜きによい**—**そう思う**」では受容群48.2%・非受容群6.9%である。非受容群は男性でよかったと思う場合が少ない。

非受容群では、自分の性でよくなかったと思う場合が多々ある。受容群に比べ多くの項目で有意にその割合が高く、「**男らしさを要求される**—**そう思う**」では受容群12.1%・非受容群48.3%、「**同性のことがいや**—**そう思う**」では受容群8.1%・非受容群34.5%、

「**理屈抜きにいやだ**—**そう思う**」では上群2.5%・非受容群31.0%である。③表17の現在の自分が好きか：「**自分が好き**—**そうは思わない**」では受容群17.7%・非受容群55.2%、「**魅力がある**—**そうは思わない**」では受容群27.5%・非受容群79.3%、「**能力がある**—**そうは思わない**」では受容群27.5%・非受容群62.1%、「**とりえのない人間だ**—**そう思う**」では受容群12.6%・受容群58.6%、「**運がわるい**—**そう思う**」では受容群19.2%・非受容群65.5%であり、非受容群は受容群に比べ自己否定的な割合が高い。

自分の性を受容できなくとも自分自身を肯定的に受容できていることは自尊心として大切なことである。だが、男性としての性を受容できにくい非受容群では、その自己肯定感も高くはない。

2) 女性(受容群388例・非受容群122例)

①表14の自分の身体に対する自己受容：「**身体が好き**—**そうは思わない**」は、受容群51.0%・非受容群66.7%であり、非受容群の方が身体的自己受容ができていない傾向がある。②表16-1・16-2の自分の性をどの様な場合によかったか、あるいはいやだと思ふか：「**妊娠・出産できる**—**よかった**—**そう思う**」は、受容群50.8%・非受容群21.1%である。「**理屈抜きによい**—**よかった**—**そう思う**」は、受容群42.5%・非受容群4.9%である。また、「**女らしさを備えている**—**よかった**—**そう思う**」は、受容群32.5%・非受容群11.4%である。非受容群は、自分の性がよかったと思う場合が少ない。

また、非受容群では女性であることがいやだと思ふ項目の多くで、受容群に比べて有意にその割合が高い。「**家庭、教育、社会、雇用で差別されている**」、あるいは「**体力・パワーがない**」・「**女らしさを求められる**」受容群14.4%・非受容群49.6%、「**妊娠出産できる**—**受容群**」5.7%・非受容群38.2%などである。非受容群では、女性であることが差別されているので女性の性を受容することがいやだと思っていると考えられる。③表14の現在の自分が好きか：「**魅力がある**—**そう思う**」では、受容群55.4%・非受容群22.0%。「**とりえのない人間だ**—**そう思う**」では、受容群17.3%・非受容群34.1%。「**運が悪い**—**そう思う**」では、受容群15.5%・非受容群26.8%。「**自分が好き**—**そう思う**」では、受容群55.4%・非受容群22.0%である。

女性で性を受容できない人は、身体的にも生理的レベルでも自分の性を受容できないといえる。また女性の性は差別されている性であると受け止めている割合が高い。

非受容群の人は、女性の性が社会的に認められていないことに差別意識を持っている。そして自尊心においてもとりえのない人間だ、あるいは運が悪い人間だと思ふ傾向がある。自分が好きだという割合が少なく、「**どちらともいえない**」45.6%という割合が高く、自己肯定感が高くない。

(6) 小括

男性は自分の身体を積極的には好きではないが、違和感を持っていない。身体のことでも気になることがあるが、自分の身体を大切にしていこうと思っている。

そして、男性は自分の性を受容している人が64%であり、女性に比べその割合が有意に高い。また、自分が男性でよかったと思う場合の項目が多く、その割合は女性に比べ有意に高い。男性は体力的なことを誇り、妊娠・出産できないことをよかったと思っている。男性は生理的レベルでも男性であることが社会的に有利であると考えているといえよう。男性としての性を理屈抜きでよいと思う割合が約40%であり、男性は性的同一性の獲得に関しては葛藤が少なく、男性という性を受容しやすいといえるのではないだろうか。

男性は、社会的に優遇されているからよいという割合が少なかった。これは、まさに生まれながらにして男であることで社会的に優遇され差別される経験が少ないことの結果ではないだろうか。

男性は性的同一性の獲得はされているが、現在の自分をどの様に受け止めているかという自己同一性に関わることで、男性は、自分の能力や人間的魅力などについて肯定的に受容することが難しい。どちらともいえないといった戸惑いなどがあり、自分をやや否定に受け止めている傾向がある。ただ、高校生に比べ大学生の方が自分を受容している割合は高い。

女性が自分の身体を好きという割合が男性に比べて有意に低く、80%以上の人身体のことを考えている。女性は理想とする容姿と自分の体型を比べ、自分の身体が好きになれなれないのではないだろうか。表2での〈ダイエットをする・フィットネスをする〉という割合が男性より高い結果であったことから、女性は容姿が気になりいつも考えていると理解できる。

そして、女性は自分の性でよかった受容している割合は40%であり、男性に比べその割合が低い。また、女性でよかったと思う場合が少なく、いやだと思う場合が多い。生理的レベルにおいても女性でよかったと思う割合は高いとはいえず、社会的に差別されているので女性という性がいやだと思うことが多い。

これらのことより、女性が性的同一性を獲得するには社会的要因による葛藤があり、女性としての性を受容することが困難であることが示唆された。

また、現在の自分のどの様に受け止めているかということに関しては、男性に比べ自分の能力を否定的に受け止めている。女性は男性に比べ自己同一性の獲得により問題があると考えられる。

自分の性を受容出来ている受容群と非受容群との検討したが、非受容群の男性では、パワーや社会的に男性らしいイメージを求められることに抵抗あるいは違

和感がある。また、社会的イメージにそった男性を受容することを否定している場合もあると考えられる。

非受容群の女性の場合は、身体的にも性的にも女性であることを受容しにくく、女性は社会的に差別されている性であると受け止めている割合が高い。また、自分はとりえのない人間だとか運が悪い人間だと思いう傾向がある。そして、自分が好きだと言う割合が少なく自己肯定感が低く、自己同一性の獲得に問題がある。

女性という性は、社会的に差別されている性であると思っている女性は、身体的にも性別意味においても女性という性を受容しにくいといえる

男性の場合は、社会が求める男性イメージに自分がそぐわない場合は、あるいはそのようなイメージを受容したくない場合は男性としての性を受容することを由としていない。だが、女性の場合は社会的に性の差別が根幹にあり、女性である性を受容しにくいことがあることが示唆された。

7 子ども観や結婚観について

自分の結婚の意思や、子ども観・結婚観・家族観などについて質問をし、性的同一性の受容との関連に置いて検討した。

(1) 結婚の意思と結婚をしたい年齢

男女共に多くの方は、「理想の人がいれば結婚をしたい 男性46.1% (大学生43.4%)・女性：38.2% (大学生39.5%)」と思っている。また、女性は「ある程度の年齢で結婚をしたい 39.8% (大学生38.1%)」と思っている (表18)。男女共に結婚の意思はあると考えられる。

結婚をする意思のある人の結婚をしたい年齢は、20-24歳が男性29.7%・女性34.1%、25-29歳が男性48.4%・女性54.1%である。結婚の意思がある人の90%以上は30歳までに結婚をしたいと思っている (表19)。われわれの前調査⁵⁾でも同様の結果が示され、青年は結婚の意思はあるが、実際に結婚をする年齢は高年齢にスライドしている傾向がある。

(2) 結婚観

結婚をする年齢が高くなっている実態から、結婚をする意味をどの様に思っているのかを検討する目的で、結婚と人生の充実感について質問をした。

「結婚でより充実した人生が送れる」と思うかでは、〈そう思う 男性56.6%・女性53.4%〉であり、〈どちらともいえない 男性27.6%・女性33.2%〉である。結婚すれば充実した人生を送れると思っている人は約半数である (表20)。

また、「女は結婚しなくとも充実した人生が送れる」では、〈そう思う 男性41.5%・女性54.7%〉である。

同様に「男性は結婚しなくとも一略一」では、<そう思う 男性40.2%・女性52.7%>である。

以上のように、女性は結婚しなくとも充実した人生が送れると思っている割合の方がやや高い。

また、「子どもがいなくとも充実した一略一」では、<そう思う 男性45.2%・女性56.5%>であり、結婚生活における子どもの存在はあまり重要視されていないといえる。

次に、自分の性を受容している受容群と非受容群について検討した。男性は、「結婚でより充実した人生が送れる一そうは思わない 受容群12.7%・非受容群37.9%」であり、非受容群では結婚によって人生が充実すると思っていない人の割合が有意に高い。

女性も同様であり、「結婚でより充実した人生が送れる一そうは思わない 受容群9.8%・非受容群21.1%」である。

(3) 家庭における役割観

家庭における男女の役割観について質問をした。「男性は働き女性は家庭」という考えに<そうは思わない 男性54.5%・女性67.7%>である(表20)。

また、「男性は家事育児を分担するべき一そう思う 男性65.8%・女性82.9%」であるが、「女性は家庭生活に影響しない程度に仕事をするのがよい一そう思う 男性48.5%・女性50.5%」である。

家庭内における男女の固定的役割観は非常に薄れてきているが、まだ、女性に対する固定的役割観はある。

性的同一性を受容別に検討したところ、女性の場合は、「男性は働き女性は家庭一そうは思わない 受容群66.2%・非受容群79.7%」であり、非受容群の方が有意に割合高い。

(4) 子ども観と子育て

子どもの存在に関しては、「自分の子どもは可愛い・うるおいや活気を与える存在・次世代の担い手として大切」であると、男女共に多くの人が思っている(表20)。また、「子育ては面白いことや発見がある」と思う人も多く、男性76.9%・女性91.5%である。

男女ともに子ども存在を肯定的に捉え、子育ての面白さにも気づいている。

しかし、「子どもが好き一そう思う 男性56.9%・女性66.0%」であり、また、「子育てによって親は犠牲にするものが多い一そう思う 男性48.5%・女性46.5%」である。

男女ともに一般論としては子どもを肯定的に捉えているが、自分の子どもを肯定的に捉え育てるかということに関しては、消極的傾向があるといえよう。

自分の性を受容している受容群と非受容群について検討したが、男性では子ども観や子育てに関して有意な差異は認められなかった。しかし、女性の非受容群では、子どもは「生命を伝える存在として大切・うる

おいや活気を与えてくれる・自分の子どもは可愛い・子どもが好きである」と思う割合が、受容群に比べ有意に低い傾向がある。また、「子育てでは面白いことや発見がある」と思う割合が有意に低く、「子育てによって親は犠牲にする一略一」と思う割合が有意に高い。

(5) 小括

青年には結婚の意思はあるが、結婚によって人生が充実すると思っている人は約半数である。特に、女性は結婚しなくとも人生を充実して送れると思っている。人生の充実と結婚は別であると考えている世代ともいえるだろう。結婚生活において、子どもの存在はあまり重視されていなく、青年のいう理想のひととの結婚とは、自分自身の人生が充実するような生活であり、それを保証してくれる相手とも考えられる。

家庭内における固定的な性的役割分業観を持っている人は約半数以下であり、性的役割分業観を固定的にもたない世代になりつつあるといえる。

子どもに対しては肯定的に捉えているが、自分の子どもを積極的に育て関わるかということについては、子育てに犠牲感をもっておりやや消極的であると考えられる。

自分の性を肯定的に受容している群と非受容群では、結婚観および子育て感に違いがある。

非受容群では、結婚によって充実した人生は送れないと思っており、結婚に否定的な考えをしている割合が有意に高い。また、非受容群では、固定的な性別役割観について否定的な考えを持つ割合が有意に高い。子育てに関しても犠牲感をもつ割合が高く、子どもに関する考え方などがやや否定的傾向がある。

性的同一性を受容しにくい人たちは、結婚あるいは子育てなどに関して否定的あるいは消極的な人生態度をもっているといえる。どの様なライフスタイルをもち、どの様に生きていくかということにも性的同一性の受容の問題が関与している。

性を受容しにくい女性の場合は、自分の性は社会的に差別されているという考えを持っているので、固定的な役割観を否定する気持ちが強くあると思われる。

IV 結語

青年の意識と行動を調べた結果、「愛情」-「性交」-「結婚」-「人生の充実」-「子どもを持つこと」についての意識において、程度の違いはあるが、それぞれに乖離が認められた。すなわち、現代の青年は、性交することを必ずしも結婚の前提としておらず、結婚で必ず人生の充実が得られるとも思っていない。対象の年齢を考慮すれば、ある程度の乖離があるのは当然のこととも受け止められ、このことから将来の結婚行

謝 辞

動などの予測は困難であると言えよう。すなわち、「結婚によってより人生が充実する」と思っている青年は約半数にとどまっているにもかかわらず、「一生結婚しないし、パートナーもいない」は1%のみで、ほとんどの人に結婚する意思が認められた。

わが国の晩婚化の理由のひとつは、結婚はしたいが「適当な相手が見つからない」ことである。対象の青年が結婚相手の理想としたのは「一緒にいて楽しく、率直に話し合える人」であった。率直に話し合うためには、男女の対等な関係が必要があるが、それを大切にできない社会的状況があることが調査結果から示唆された。主なる問題2点について以下に述べる。

第一に、性的被害の状況から「見知らぬ人から」と「身近な人から」の被害の多さが判明した。異性に対する人権感覚を疑問視せざるを得ない現状を社会的問題としてとらえ、不快な経験や性的被害から青年を守る手だてを早急に講じることが肝要である。

第二は、性的同一性の獲得に影響する社会的要因の問題である。女性は自分の性でよかったと受容している割合が、男性に比べ低く、社会的に差別されているので女性という性がいやだと思うことが多かった。女性が性的同一性を獲得するには社会的要因による葛藤があることが示唆された。

また、自分の性を受容しにくい人たちは、結婚あるいは子育てなどに関して否定的あるいは消極的な人生態度をもっており、性的同一性の受容の問題は、どのようなライフスタイルをもち、どの様に生きていくかということにも関与していた。

なお、性的同一性を受容しにくいことは、社会的要因のみならず、生育歴において父親あるいは母親に肯定的モデル像がもてない問題や、家庭のあり方や親の子どもに対する養育態度など、親の人生態度の影響も考えられ、これらについては今後の課題とする。

アンケートに回答して下さった学生・生徒の皆様
に深謝申し上げます。また、調査に当たりご協力
いただきました大学および高等学校の先生方に
深謝申し上げます。

文 献

- 1) 宮原 忍、他：若年者の性についての意識と行動に関する研究-第1報 文献研究、日本子ども家庭総合研究所紀要第34集、P61-75,1998
- 2) 総務庁青少年対策本部、日本の青少年の生活と意識に関する基本調査報告書、1996
- 3) (財)日本性教育協会、性科学ハンドブック Vol.3 「若者の性はいま・・・青少年の性行動 第4回調査」、平成9年7月15日
- 4) モノグラフ高校生 vol.51、ベネッセ教育研究所、1998
- 5) 宮原 忍、他：非婚晩婚の母子保健学的研究(第1・2・3報) 日本総合愛育研究所紀要第31・32・33集、1994・1995・1996年

表1 年齢別対象人数 (%)

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
15歳	21	3.4	19	2.0
16歳	161	26.0	163	17.4
17歳	249	40.2	263	28.0
18歳	7	1.1	24	2.6
19歳	6	1.0	133	14.2
20歳	15	2.4	110	11.7
21歳	26	4.2	110	11.7
22歳	64	10.3	85	9.1
23歳以上	70	11.3	31	3.3
不明	1	0.2	0	0.0
合計	620	100.0	938	100.0

表2 次のようなおしゃれ体験をしていますか (%)

	男性			女性		
	している	いずれして みたい	したくない	している	いずれして みたい	したくない
1化粧をする	2.4	8.1	87.7	69.1	26.5	4.3
2ビジュアル系のメイクアップをする	1.0	10.3	87.3	2.2	9.1	87.1
3眉の手入れをする	29.0	16.8	53.5	87.1	9.4	3.5
4腕や脚の脱毛をする	4.2	11.8	81.9	85.2	6.9	7.4
5髪を染める	27.3	31.9	40.2	54.4	26.9	18.4
6ピアスを耳にする	8.9	20.0	70.3	36.0	31.8	31.8
7入れ墨を入れる (一時的なものを除く)	1.0	9.2	88.7	0.2	5.9	92.8
8スタイルをよくするためにダイエットをする	6.8	18.9	73.1	37.2	41.7	20.5
9スタイルをよくするためにフィットネス (運動) をする	13.9	31.0	53.5	26.9	57.7	14.7
10美容整形をする	0.6	3.4	94.5	0.2	9.4	89.8
11エステに通う	0.3	9.5	88.4	1.5	63.6	34.1
12日焼けサロンで肌を焼く	2.3	8.1	88.4	2.7	2.6	93.8
13自分のヌード写真をとる	1.3	6.1	91.0	0.4	4.9	93.8

表3 あなたは自分の洋服をどのようにして選びますか (%)

	男性	女性
1.流行が大切なので、必ず最先端を選ぶ	2.4	1.3
2.適当に流行を取り入れる	28.5	50.2
3.仲間の服装からはずれないようにする	3.5	2.6
4.流行に関係なく、自分に合うものを選ぶ	59.8	45.3
5.親などから与えられたものを着る	4.7	1.2
6.友人や恋人に選んでもらったのを着る	2.1	0.7
	101.0	101.3

表4 現在、あなたには信頼し何かと相談できる友人がいますか (%)

	男性	女性
1.いる	80.6	93.6
2.いない	18.5	6.1
SQ 友人について		
1同性の友人だけ	40.2	48.2
2異性の友人だけ	1.3	0.7
3同性も異性も両方いる	37.9	44.2
合計	79.4	93.2

表5 あなたは異性の友人が欲しいですか (%)

	男性	女性
1はい欲しい	85.3	92.8
2いいえ欲しくない	12.9	5.8
SQ 欲しくない理由		
1.勉学の妨げになりそうなので	0.8	0.0
2.経済的・精神的な負担が増えそうなので	2.7	0.4
3.深入りするとわずらわしく、トラブルになりそうなので	4.4	2.2
4.異性に興味がないので	0.6	0.2
5.周囲が反対したり、うるさいので	0.0	0.0
6.今、つきあっているいるのでこれ以上は欲しくない	3.9	2.8
合計	12.4	5.7

表6-1 理想の異性としてどのようなことを重視しますか：「重視する」割合 (%)

（「重視する」割合）	今付き合うなら		将来結婚するなら	
	男性	女性	男性	女性
17.一緒にいて楽しい	84.7	94.1	83.1	93.3
5.やさしい（おだやか）	74.0	80.7	76.9	87.1
9.率直に話し合える	73.1	80.0	82.6	93.1
13.相性がよい	69.2	79.4	74.4	85.5
12.フィーリングがあう〔感性の一致）	64.5	75.6	69.0	83.0
15.寂しさをいやしてくれる	51.8	59.4	62.7	67.3
1.相談にのってくれる	49.0	72.3	73.2	91.7
16.励ましたり成長させてくれる	46.9	68.6	60.8	81.0
3.ルックスがいい	33.1	20.6	24.8	14.3
10.不満があっても許してくれる	31.3	38.9	42.1	52.8
18.セックスの相性がよい	30.2	20.4	38.5	35.0
14.センスがよい	30.0	32.3	27.4	27.3
7.自立している	23.2	38.8	37.7	82.9
11.あまり干渉しない	18.2	23.5	20.6	25.5
8.自分にひげ目を感じさせない	15.8	24.9	22.1	33.7
6.能力・才能がある	15.6	25.6	24.4	43.2
4.お金をもっている	6.9	9.0	11.8	35.3
2.頼めば何でもやってくれる	6.5	10.0	14.2	17.3

注) 項目は「今つきあうなら-男性%」の降順

表6-2 理想の異性としてどのようなことを重視しますか「重視する」+「やや重視する」割合 (%)

（「重視する」+「やや重視する」合計）	今付き合うなら		将来結婚するなら	
	男性	女性	男性	女性
17.一緒にいて楽しい	97.3	99.3	94.7	99.2
5.やさしい（おだやか）	96.1	98.1	93.5	98.9
9.率直に話し合える	95.5	97.9	92.9	99.2
13.相性がよい	93.9	96.6	91.7	97.5
12.フィーリングがあう	92.6	96.5	90.8	97.6
1.相談にのってくれる	92.5	97.5	93.2	98.8
15.寂しさをいやしてくれる	88.6	91.7	89.3	94.5
16.励ましたり成長させてくれる	87.7	95.7	90.0	97.1
10.不満があっても許してくれる	86.9	91.2	86.8	94.3
3.ルックスがいい	86.8	81.4	80.8	72.4
14.センスがよい	80.6	88.2	76.6	85.7
18.セックスの相性がよい	69.2	62.1	74.0	77.4
11.あまり干渉しない	68.4	77.3	67.5	80.1
7.自立している	68.2	85.5	78.3	97.6
6.能力・才能がある	62.1	71.9	70.4	88.4
8.自分にひげ目を感じさせない	60.8	69.2	61.1	75.3
2.頼めば何でもやってくれる	50.2	61.6	65.0	79.2
4.お金をもっている	33.2	49.5	45.5	89.9

注) 項目は「今つきあうなら-男性%」の降順

表7 理想の異性としてどのようなことを重視しますか：「重視しない」割合（％）

（「重視しない」割合）	今付き合うなら		将来結婚するなら	
	男性	女性	男性	女性
4.お金をもっている	65.8	50.0	50.2	9.2
2.頼めば何でもやってくれる	49.0	38.0	31.1	19.8
6.能力・才能がある	37.1	27.8	25.6	10.9
8.自分にひげ目を感じさせない	36.9	28.6	33.2	22.2
7.自立している	31.0	14.1	17.7	1.3
11.あまり干渉しない	30.2	22.2	27.9	18.8
18.セックスの相性がよい	29.2	34.4	21.3	18.9
14.センスがよい	18.1	11.5	18.7	13.4
3.ルックスがいい	12.3	18.2	15.2	26.5
10.不満があっても許してくれる	11.6	8.0	8.7	4.4
16.励ましたり成長させてくれる	10.8	3.4	5.8	1.8
15.寂しさをいやしてくれる	10.5	7.7	6.5	4.4
1.相談にのってくれる	6.8	2.1	3.1	0.4
12.フィーリングがあう	5.8	2.8	4.4	1.4
13.相性がよい	5.0	2.9	3.9	1.7
9.率直に話し合える	3.4	1.5	2.7	0.1
5.やさしい（おだやか）	3.2	1.3	2.7	0.1
17.一緒にいて楽しい	1.9	0.2	1.3	0.1

注) 項目は「今つきあうなら-男性%」の降順

表8 異性との付き合いや性についての経験：「ある」の割合（％）

	高校生		大学生	
	男性	女性	男性	女性
10.異性に近づいて親しくなりたと思ったことがありますか	91.3	88.6	97.3	98.8
11.デートをしたことがありますか	55.9	57.7	89.0	84.3
12.性的なことに関心をもったことがありますか	90.9	72.5	98.4	94.9
13.性的な関心から異性のからだに触ったことがありますか	44.3	30.0	79.7	63.7
14.性的な意味合いでキスしたと思ったことがありますか	72.9	56.6	92.3	80.7
15.性的な意味合いでキスの経験がありますか	40.9	39.8	78.6	69.0
16.ベッティングの経験がありますか	21.9	16.6	68.1	48.3
17.性交（セックス）の経験がありますか	18.5	17.9	74.2	57.0
18.自慰（マスタベーション、オナニー）の経験がありますか	79.2	13.2	94.5	26.9
19.同様の経験がありますか	1.1	0.4	10.4	9.4

表9 あなたは次のような不快な経験をしたことがありますか（「あり」の場合誰から受けたか：重複回答％）

	男性	女性
20-1 身体をじろじろみられた	25.8	57.9
1 身近な人から	4.7	9.0
2 友人から	6.5	9.2
3 その他の知人から	4.7	7.9
4 見知らぬ人から	18.7	47.9
20-2 言葉などで性的なからかいを受けた	26.3	43.3
1 身近な人から	4.7	9.1
2 友人から	19.7	17.0
3 その他の知人から	4.2	10.2
4 見知らぬ人から	2.3	17.4
20-3 電車の中などで体を触られた	12.7	57.6
1 身近な人から	0.6	0.5
2 友人から	1.1	0.4
3 その他の知人から	0.3	1.0
4 見知らぬ人から	11.1	57.7
20-4 性的な誘いを受けた	16	40.5
1 身近な人から	5.2	7.9
2 友人から	6.5	10.7
3 その他の知人から	3.9	9.4
4 見知らぬ人から	4.4	20.9
20-5 性的な行為を要求された	11.1	27.5
1 身近な人から	4.4	10.1
2 友人から	4.7	8.5
3 その他の知人から	2.9	6.9
4 見知らぬ人から	1.8	7.6
20-6 性的な暴行を受けた	2.1	3.7
1 身近な人から	0.8	1.5
2 友人から	0.6	0.5
3 その他の知人から	0.5	1.1
4 見知らぬ人から	0.6	1.9

表10 あなたは性交についてどの様になっていますか：「そう思う」の割合（％）

	男性	女性
1. 性交はすばらしいことだと思う	55.8	34.4
2. 性交することによってお互いの愛情が深まる	57.3	51.8
3. 愛し合っていれば、性交してよい	76.6	73.7
4. 愛し合っていても、どちらかしたくない時は性交しないほうがよい	74.7	89.9
5. 愛情に関係なく性交してもよい	21.9	6.8
6. 性交はしたくない	3.5	5.8
7. 性交することは怖い	11.8	30.0
8. 性交に自信がない	17.7	27.4
9. 妊娠が怖い	44.5	57.6

表11 あなたが性交（性交）する時、相手が性病にかかっているかどうか気になりますか（％）

	男性	女性
(A) 気になる合計	35.8	21.6
A性病が気にならない理由		
1.必ずうつるわけではない	5.2	1.7
2.相手は性病でないと思う	13.2	11.3
3.コンドームを使うので	7.7	5.2
4.考えたこともないので	9.7	3.4
(B) 気にならない合計	65.2	75.9
B性病が気になる場合		
1.性病でないことを確認してから	10.5	16.4
2.その場では言い出せない	5.3	6.2
3.その場や相手次第で行動する	21.9	24.3
4.コンドームで予防できる	27.4	29.0

表12 あなたは＜援助交際＞についてどのように思いますか：「そう思う」の割合（％）

	男性	女性
1.身体や心は自分のモノだから、援助交際してもかまわない	26.8	16.8
2.身体が減ったり心が傷つくモノではないから、援助交際してもよい	13.5	5.8
3.遊びやファッションの一つだから、援助交際をしてもかまわない	6.9	2.8
4.援助交際をすることは、身体や心を傷つけることだからいけない	64.0	81.9
5.将来の愛する人との関係に影響を及ぼしそうだからいけない	68.1	73.8
6.援助交際をすることは理屈抜きでいけない	55.6	64.6
7.援助交際をしている人は、寂しいからやっている	25.2	34.1
8.援助交際を買う人がいることが問題である	71.5	86.6

表13 婚前性交についてあなたの考えはどれに近いですか（％）

	男性	女性
1.どんな場合でもいけない	2.1	1.4
2.結婚が前提ならかまわない	3.1	3.5
3.愛しあっていればかまわない	32.1	38.9
4.お互いに納得していればかまわない	55.8	49.8
5.婚前性交という言葉の意味が分からない	5.6	4.6
合計	98.7	98.2

表14 あなたは自分の身体をどのように感じていますか（％）

	男性			女性		
	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない
1.自分の身体が好き	19.4	37.7	41.9	12.5	54.1	32.6
2.自分の身体に違和感がある	17.9	58.5	22.4	15.0	59.9	24.1
3.身体のことを考えたことがない	9.4	69.0	20.5	4.5	82.3	11.6
4.気になることはあるが、自分の身体は大切にしたい	82.7	4.4	11.9	92.6	2.0	4.2

表15 あなたは自分の性（男性は男であること、女性は女であること）をどのように思いますか。

	男性	女性
1.自分の性で、よかったと思う	63.9	41.4
2.自分の性で、どちらかというよかったと思う	15.0	32.7
3.自分の性で、どちらかというよかったと思わない	2.9	9.6
4.自分の性で、よかったと思わない	1.8	3.5
5.わからない	15.2	11.9
合計	98.7	99.1

表16 あなたは自分が<男である・女である>ことをよかったと思うあるいはいやだと思うのはどのような場合ですか

表16-1 性別を<よかった>と思う場合（複数回答%）

	男性	女性
1.家庭の中で優遇される	4.8	13.6
2.教育の場で優遇される	2.9	9.0
3.社会（しきたりや慣習）で優遇される	10.6	12.0
4.雇用や職場において優遇される	19.2	3.4
5.能力が優れている	13.9	3.8
6.体力・パワーがある	56.9	1.6
7.行動力がある	27.4	6.3
8.養う力がある	15.6	5.3
9.差別された立場や弱者の視点で考えられる	8.1	18.8
10.家族から期待をかけられている	8.1	2.5
11.<男らしさ>または<女らしさ>を備えている	24.2	26.0
12.（女は）妊娠・出産できるから	1.0	44.8
13.（男は）妊娠・出産できない（しなくてすむ）	39.2	0.4
14.理屈抜きによい	39.4	29.0
15.その他	6.0	8.3
合計	277.3	184.9

表16-2 性別を<いやだ>と思う場合（複数回答%）

	男性	女性
1.家庭の中で差別される	3.9	10.3
2.教育の場で差別される	4.7	7.5
3.社会（しきたりや慣習）で差別される	6.8	35.6
4.雇用や職場において差別される	3.9	44.0
5.能力がない	2.7	5.7
6.体力・パワーがない	3.2	33.0
7.行動力がない	1.8	6.4
8.養う力がない	1.8	8.3
9.同性の考え方や行動パターンがいやに思う	10.0	27.9
10.家族の期待に応えなくてはいけない	15.5	3.5
11.<男らしさ>または<女らしさ>を要求される	16.1	24.0
12.（女は）妊娠・出産できるから	2.7	12.8
13.（男は）妊娠・出産できない	2.9	1.4
14.理屈抜きにいやだ	4.5	2.2
その他	3.7	3.8
合計	84.2	226.5

表17 あなたは現在の自分をどのように思っていますか（%）

	男性			女性		
	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない
1.自分が好き	42.3	21.1	35.5	43.8	17.4	38.0
2.自分には魅力がある	19.7	40.0	39.2	19.6	40.6	38.9
3.自分には能力がある	30.6	30.6	37.3	22.0	38.3	38.6
4.自分は平均的である	38.4	34.7	25.3	51.1	21.9	25.7
5.自分はとりえのない人間だ	17.1	60.2	21.6	19.6	55.0	24.4
6.自分は運が悪い	23.5	45.5	29.8	18.2	51.4	29.6

表18 あなたの結婚に関するお考えは、次のどれに当てはまりますか（％）

	男性	女性
1. 結構するつもりの相手があるので、いずれ結婚したい	10.3	11.8
2. 現在相手はいないが、ある程度の年齢などには結婚した	31.0	39.8
3. 理想的な相手がいれば結婚したい	46.1	38.2
4. 結婚はしたくないが、パートナーとなる人が欲しい	6.5	6.7
5. 一生結婚するつもりはないし、パートナーもいらない	2.3	0.3
6. 非該当（現在、結婚している）	0.3	0.1
合計	96.5	96.9

表19 結婚したい年齢（表18の1と2に○をつけた男性256人・女性484人が％ベース）

	男性	女性
20歳まで	7.8	8.1
21～25歳	46.5	48.3
26～30歳	43.0	41.7
31～35歳	1.6	0.8
36～40歳	0.4	0.0
40歳以上	0.0	0.0
無回答	0.8	1.0
合計	100.0	100.0

表20 あなたの〈結婚観・子ども観・家族観〉などについて伺います

	男性			女性		
	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない	そう思う	そうは思わない	どちらとも言えない
1. 子どもは、自分の生命を伝える存在として大切である	58.1	23.4	16.8	61.1	17.7	20.0
2. 子どもは界の、社会の次世代の担い手として大切である	69.7	14.2	14.2	70.5	10.4	17.9
3. 子どもは人々にうまいや活気を与える存在である	70.3	12.6	15.3	83.0	4.8	10.9
4. 私は、自分の子はかわいいと思う（思うだろう）	79.8	4.5	98.2	89.3	3.5	6.1
5. 私は、子どもが好きである	56.9	13.7	27.6	66.0	11.8	21.1
6. 女性は結婚しなくても、充実した人生を送ることができる	41.5	19.4	37.3	54.7	13.3	30.9
7. 男性は結婚しなくても、充実した人生を送ることができる	40.2	26.0	32.1	52.7	14.6	30.7
8. 結婚することによって、より充実した人生を送ることができる	56.6	13.9	27.6	53.4	11.9	33.2
9. 子どもなしでも充実した結婚	45.2	18.9	34.0	56.5	11.4	30.6
10. 子育てにはおもしろいことや発見がある	76.9	3.5	17.6	91.5	1.8	5.5
11. 子どもを生み育ててこそ、人として一人前である	30.3	41.9	26.0	22.8	47.1	28.8
12. 子育てによって、親は犠牲にするものが多い	48.4	26.5	23.1	46.5	25.7	26.3
13. 男性は家事や育児を分担するべきである	65.8	9.0	23.2	82.9	3.5	12.2
14. 男性は働き、女性は家庭を守るのがよい。	17.9	54.5	25.8	8.0	67.7	23.1
15. 女性は家庭生活に影響しない程度に仕事を大切にすることがよい	48.5	16.6	32.7	50.5	19.9	28.4
16. 男性は仕事に影響しない程度に家庭生活を大切にすることがよい	53.7	16.5	27.9	51.7	22.5	24.5